令和5年度 諸塚村立諸塚小学校

自己評価及び学校関係者評価書 (記録)

作成者 諸塚村立諸塚小学校

諸塚小学校学校運営協議会

令和5年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【1 学力向上】

※ 達成状況（ ）の数値は昨年度のもの（黒字は同じ数値・「赤字」は昨年度より高い数値・「青字」は昨年度より下がった数値、(新)は、本年度の新しい取組）

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 授業力の向上 ○ 少人数のよさを活かした個に応じた指導 ○ タブレットの効果的な活用	① 授業では自分の考えをまとめたり、友達と話し合ったりする学習場面が適切に設定されているか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童100%(100%) 保護者100%(100%) 教師100%(100%)	A	A	・先生方は忙しいのではないか。自宅に仕事を持ち帰っていないか。 ⇒規模の大小にかかわらずやるべき仕事の量は変わらない現状がある。精選できるところを検討する必要がある。 ・過度の負担がないか、実態を把握してほしい。 ・複式学級でも児童が満足しているようだ。その点では満足のいくものだ。	A	学習場面で子ども同士の「対話」の場を継続し、共に高め合う児童の育成を目指していく。
	② 担任の先生は「分かった、できた!」と感じさせる授業を行っているか(3者のA・B評価それぞれ90%以上)	児童100%(100%) 保護者100%(100%) 教師97%(100%)	A				教師一人一人の授業力向上に努め、学ぶ楽しさ・できる喜びを味わわせる授業を実践していく。
	③ 学習調査等の分析結果を生かした、授業づくりを行っているか。(3者のA・B評価それぞれ90%以上)	児童100%(100%) 保護者100%(94%) 教師97%(89%)	A				分析結果をもとに、本校の課題を共有し、授業を実践していく。
	④ タブレット端末の効果的な活用により、学習意欲の向上や情報活用能力の育成を図ることができているか(3者のA・B評価それぞれ90%以上)	児童100%(100%) 保護者100%(90%) 教師99%(89%)	A				タブレットの効果的な活用について、職員研修等を通して、児童の情報活用能力の育成を図っていく。
(2) 学力向上 ○ 家庭との連携を図った家庭学習の定着 (3) 読む活動の推進 ○ 読書活動の推進 ○ 新聞の活用を図った取組	① 朝トレの充実を図り、基礎・基本の定着を図ることができているか。(アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童100%(100%) 教師74%(88%)	B	B	・教師の評価が低い。家庭に何を求めているのか、明確に示す必要があるのではないか。	B	朝の時間の取組について内容と評価項目を見直す。質的改善を行いながら、児童の学力向上につなげていく。
	② 家庭と連携した取組(丸付けや読み声等)により、児童の学力向上につなげることができているか。(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童94%(93%) 保護者100%(72%) 教師74%(67%)	B				個に応じた宿題を出している。取組を全体に広げるようにする。また、学校が求める連携の在り方を具体的に示す。
	③ 児童が多くの本にふれ、読書活動を充実させるための指導を行っているか。(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100%(94%) 保護者100%(70%) 教師97%(100%)	B				家庭で読んで欲しい本の内容や量を示すなど、保護者との連携を図りながら、家庭における読書活動の推進を図ってきたい。

【A:期待(目標)以上の達成度、B:概ね期待(目標)どおりの達成度、C:期待(目標)を下回る達成度、D:期待(目標)にほど遠い達成度】

令和5年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【2 豊かな心の育成】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 豊かな心の育成 ○ 学級経営の充実による望ましい人間関係の醸成 ○ 教育活動全体を通じた指導	① 学級は「いじめ防止プログラム」の実践を通して望ましい人間関係ができてきているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A	・子ども同士のトラブルについてどう対応しているのか。 ⇒近くにいる職員や学級担任で対応している。 ⇒悩み等をアンケートで確認し、その後の教育相談で一人一人と向き合う時間を確保している。 ⇒養護教諭等も対応している。 ・子どもたちが相談できる環境を整えてやるのが大切。	A	小規模校のよさを生かして、今後も異年齢集団での様々な活動を積極的に取り入れ、望ましい人間関係の醸成を図っていく。長期欠席者等についても項目に入れる。
	② いじめのない楽しい学校生活が送れているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A			事前に相談できる人を伝えておくなど子どもがいつでもSOSを出せるように環境を整える。
	③ 相手の気持ちに立つことの大切さや、互いに支え合うことの大切さ等の指導が行えているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A			道徳教育を要として、相手の気持ちに立って考えることの大切さ・素晴らしさを子どもたちに指導していく。
(2) 基本的な生活習慣の定着 ○ 「早寝早起き朝ご飯」の生活リズムの確立 ○ あいさつ指導の徹底	① 生活のリズムが整っているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童98% (95%) 保護者97% (97%) 教師74% (89%)	B	・「あいさつ」について家庭への啓発をはかる ・読書やむし歯治療、朝ご飯などの生活習慣については、家庭での取組が大きく、大切なものである。家庭教育学級で取り上げたいが（参加者が固定化している）、広く普及させるためには、学校行事と兼ねるとよいのではないか。	B	生活リズムを整える大切さを広く伝えたり、個別に伝えたりする。
	② 場や相手に応じた心のこもった元気なあいさつができるか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 保護者100% (97%) 教師99% (67%)	A			場所や場面に関わらず、徹底してあいさつが実践できるように、あいさつへの意識向上を図っていく。
(3) 環境美化の推進 ○ 無言清掃の徹底 ○ みどりの少年団活動の充実	① 無言清掃は徹底しているか（児童・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 教師100% (100%)	A	・「みどりの少年団」の具体的な活動は何か。 ⇒花や芋の苗植え、学校林の下草刈りなど	A	無言清掃が、本校の伝統として引き継がれていくように、児童の意識をさらに高めていきたい。
	② みどりの少年団活動に取り組んでいるか（児童・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% (100%) 教師100% (90%)	A			次年度はGIAHS（世界農業遺産）の取組につなげ子ども自身の活動となるよう意識付けを図る。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和5年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【3 健康・安全の向上】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 体力向上プランに基づいた運動の習慣化 ○ 体力テストをもとにした体力の向上のための取組の強化	① 運動に興味を持ち進んで運動や外遊びをするか。(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A	・「柔軟性」「握力」などの具体的な取組は何か。 ⇒授業や朝の会等で、サーキットトレーニングや手の体操を行う。 ・「柔軟性」や「握力」は自分の身を守るために必要である。	A	体力向上につなげるために、今後も外遊びの励行を行っていく。 運動課題である「柔軟性」と「握力」は、日々の取組により効果が見られている。継続して取り組んでいきたい。
	② 児童ひとりひとりの体力は向上しているか。(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師83% (100%)	A			
(2) 望ましい食習慣の形成 ○ 諸塚学校給食の日を通した食に関する意識の向上	① 朝ごはんをきちんと食べているか(児童・保護者アンケートのA・B評価80%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師83% (R4なし)	A	・よくかんで食べる習慣をつけてほしい。 ・地震のことと関連付けて「食べられることが当たり前ではない」ことを伝え食への感謝をもたせたい。	A	生活リズムの大切さを、今後も継続して指導を行っていく。
	② 好き嫌いをせずマナーよく食べているか。(3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (66%) 教師100% (100%)	A			給食感謝週間に関連付けた指導を行う。
(3) 健康診断等の結果を基にした計画的な指導 ○ むし歯治療及び予防の取組の強化	① 歯磨き等、むし歯予防の習慣化ができてきているか(児童・保護者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (97%) 教師100% (R4なし)	A	・歯みがきなど長期休業になると怠りがちなので、家庭への呼びかけが必要だと考える。	A	むし歯予防の習慣化が図られてきている。継続して指導を行っていく。
	② むし歯の予防や治療に取り組んでいるか。(3者アンケートのA・B評価85%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師92% (94%)	A			歯の治療率がよくなっている。今後もしっかり家庭への啓発を行っていく。
(4) 危機回避能力の育成 ○ 避難訓練等による安全意識・技能の向上	① 交通事故等にあう児童を1名も出さない。(3者アンケートのA・B評価85%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (100%) 教師100% (100%)	A	・子ども自身に避難の意識を持たせることが大切である。	A	事故もなく全員元気に登校できている。事故を未然に防ぐため、今後も具体的な場面指導の徹底を図っていく。
	② 避難訓練における児童アンケートで、主体的に動く児童の達成率85%を目指す。(児童・教師アンケートのA・B評価85%以上)	児童100% (100%) 保護者100% (R4なし) 教師100% (100%)	A			本年度も全保護者に迎えに来ていただく風水害避難訓練を実施することができ、子どもたちの安全意識を高めることができた。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和5年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【4 家庭・地域との連携】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 地域素材の活用、人材との連携 ○ 教育活動への積極的な活用 ○ C学習の推進	① 地域素材・地域人材の全学年2回以上の活用を目指す。(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童 100% (100%) 保護者 100% (100%) 教師 100% (100%)	A	A	・日々の授業の中で、ミシンかけやのこぎりを使う活動など、地域の方や保護者の活用を呼びかけてはどうか。 ・地域の方でコーディネーターの役わりを果たす、核となる人の存在が必要である。	A	地域人材・地域素材について全職員で共通理解を図りながら、より一層活用が図れるようにしていく。
	② 学校は、児童に「ふるさと」のよさを感じさせているか(3者アンケートのA・B評価80%以上)	児童 100% (100%) 保護者 100% (100%) 教師 100% (100%)	A				「ふるさと」のよさを感じさせる体験活動や講話等を取り組んでいく。
	③ キャリアパスポートの活用を図った取組により、自身の成長を感じさせているか(3者アンケートのA・B評価80%以上)	児童 100% (100%) 保護者 100% (97%) 教師 97% (100%)	A				保護者の方のキャリアパスポートへの理解が深まった。機会あるごとに家庭に持ち帰らせ、児童の成長を喜び合える記録にしていきたい。
(2) 開かれた学校づくりの推進 ○ 定期的な情報発信(ホームページ、学校便り) ○ 地域に貢献できる活動	① 学校便り(月1回)、学級通信(週1回以上)を発行し、学校ホームページを週に1回以上は更新する。(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童 87% (88%) 保護者 100% (100%) 教師 99% (100%)	A	A	・子どもの評価が低くなっているが、子どもが作成した文章をHPに出してはどうか。 ・学校HPを充実させるため子どもの日常生活について取り上げ、どのようにすごしているかを示してはどうか。 ・学校だよりなどでHPを見るように促してはどうか。 ・地域連携を進める立場の人がいるとよい。	A	担当者が、魅力ある内容のホームページを日々更新していることもあり、保護者・地域の皆様の関心度が高い。今後も子どもたちの様子を積極的に発信していきたい。
	② 保護者・地域の方々と協働した取組による、コミュニティ・スクールの推進を図ることができているか(3者アンケートのA・B評価80%以上)	児童 100% (100%) 保護者 100% (100%) 教師 100% (100%)	A				次年度も、保護者・地域の方々とコミュニティ・スクールの推進に向けて熟議を重ね、「地域とともに発展する諸塚小学校」を目指して取り組んでいく。

【A:期待(目標)以上の達成度、B:概ね期待(目標)どおりの達成度、C:期待(目標)を下回る達成度、D:期待(目標)にほど遠い達成度】

令和5年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【5 特別支援教育の推進】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価	学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 特別支援教育体制の整備・運営 ○ 校内研修、ケース会議等の充実 ○ 個の実態把握とそれに応じた指導の工夫	① 学校は児童一人一人の個性と実態を理解し、それに応じた指導を行っているか(3者アンケートのA・B評価90%以上)	児童100% (86%) 保護者100% (97%) 教師100% (100%)	A		A	外部講師を招聘し、「子どもへの言葉かけや接し方」について研修を行ったことで、担任一人一人が自らの指導を見つめ直すよい機会となった。今後も、関係機関との連携を図りながら、個に応じた支援の在り方の充実が図られるように研修を深めていきたい。
(2) 幼稚園や関係機関等との連携 ○ 定期的な情報交換	② 学校と幼稚園は児童について双方の職員が理解し、連携した指導を行っているか(保護者・教師アンケートのA・B評価90%以上)	児童100% (R4なし) 保護者 94% (97%) 教師100% (100%)	A	・保護者の数値が低くなったのはなぜか。 ⇒幼小連携の取組についてよく知らないため。 ・年度当初に学校紹介を行ってはどうか。 ・HP等にハートフル委員会を定期的開催していることを掲載してはどうか。	A	幼稚園・小学校が共に情報や課題を共有する「幼小合同ハートフル委員会」があることを年度当初のPTA総会やHP等で発信していく。 幼稚園が併設されている利点をさらに生かし、情報交換はもとより、様々な活動を合同で行うことより、さらに充実した取組を図っていく。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

<課題>

- ※ アンケートの「重点項目」の見直し、「達成状況指標」の客観的な判断基準（むし歯の保有率、治療率などの数値）を作成。
- ※ 「今後の改善策」については、運営協議会后に作成するべきではないか。
- ※ 達成状況の示し方
目標数値に対する達成率ではなく、シンプルな達成状況で。